

## 南東北インターハイ



### 山岳部 37年ぶりの出場



#### 「インターハイを終えて」

山岳部3年 早坂 和希(三本木中出身)

37年ぶりのインターハイ出場という事実が高ぶる中、高校最後の登山として月山・蔵王山系に挑みました。全国の舞台であることの緊張から、ミスをしたところもありましたが、強豪校である宮城一高のテクニクを合宿で吸収し、古川高校が続けてきた登山スタイルを大会でも崩すことなく、全体として満足のいく登山ができたと思います。県大会から応援してくださった皆さん、ありがとうございました。

### ソフトテニス 41年ぶりの出場

#### 「支えてくれた方々に感謝」

ソフトテニス部2年 伊藤 文弥(古川東中出身)

私たちは、高校に入学して以来インターハイ出場を目標としていましたが、古川高校創立120周年の記念の年に出場できるとは思いませんでした。出場が決まってからは、「全国ベスト16」を目標に掲げ日夜練習に取り組みましたが、全国の壁は厚く、初戦敗退となりました。

今回の出場に際し、校長先生をはじめ、学校の先生方、及びソフトテニス部関係の皆様が応援して下さったことに感謝申し上げ、この悔しさを糧に来年も出場できるように日々練習に励みたいと思います。

#### 「全国の壁を痛感したインターハイ」

ソフトテニス部2年 千坂 亮智(古川東中出身)

私は7月23日に会津若松市で行われたインターハイ・ソフトテニス競技に出場しました。初めての大会だったので、とにかく1試合を楽しもうという気持ちで臨みました。

結果は初戦敗退。もっとできたはずなのという悔しい気持ちでいっぱいです。やっぱり全国大会は別格なものだと痛感しました。来年、またインターハイに出場し、次は1勝2勝と一つでも勝てるようにこれから練習していきたいです。



### ソフトボール部東北大会3位

#### 「最高の仲間と」

ソフトボール部3年 佐藤 寿彦(栗原西中出身)

2年ぶりに東北大会に出場することができました。一回戦は青森代表の五所川原農林高校に18対9のスコア勝ち、準決勝は福島代表の安積黎明高校に9回タイブレークの末2対4で敗れ、第3位という結果でした。最高の仲間とソフトボールができたこと、そしてこの部の部長ができたことを大変誇りに思います。チームメイト、マネージャー、先生方、親の方々、OBの方々全ての人に感謝です。本当にありがとうございました。



### 1学年平泉へ遠足 ～知と個性の発見～

当初予定されていた船形山登山が、悪天候により変更されて実施された平泉への遠足でしたが、世界遺産である中尊寺や金色堂、さらに一関博物館を巡り、東北の歴史と仏教について学ぶことができ、大変有意義なものとなりました。

今回の遠足では「知の発見」もさることながら、友人達の新たな「個性の発見」も大きな収穫でした。友人達の意外な趣味や思考など新たな一面を知ることができ、それにより、クラスに漂っていた余計な緊張感は無くなり、以前より友人と打ち解けて話すことができるようになりました。

今回の遠足はクラスの団結力をより強固なものとし、今後の学校生活の大きな糧となる充実したものでした。

嶋津 颯(古川北中出身)



### 2年生 被災地訪問古高祭で発表

2学年は東日本大震災で被災した地域に研修に行きました。そこには想像していたより復興が進んでいない現実があり、そのような現実を目のあたりにし、感じたことをクラスごとにまとめました。

古高祭での発表では多くの方々にお越しいただき、被災地の現在の様子を少しでも知っていただくことができたと思います。

この体験は心にとどめておくのではなく、将来のために生かしたいと思っています。

(松岡修斗 古川北中出身)





## 総合開会式

私達生徒企画委員は、1年生の頃からみやぎ総文に向けて準備を進めてきました。私が所属している総合開会式委員会では、総文祭の顔とも言える総合開会式の企画を行いました。前催県の例があるとはいえ、「みやぎ総文らしさ」を出すためにほぼ0からのスタートだったため、議論が行き詰まり悩むこともありましたが、本番が大成功に終わりとてもほっとしています。この47年に1度しかない貴重な経験を糧に、これからも頑張ります！

3年 三浦 さくら(古川東中出身)

委員が一丸となって総合開会式を迎えられたこと、全員でイメージソングを歌えたこと、総文を通して出逢えた仲間がいること、仲間と支え合うことを実感できたこと、学校生活では得られない驚きと感動をくれたこと、そして、前催県である広島の方の、宮城が後催県でよかったと言ってもらえたこと、この全てが私の人生の宝物です。苦しいこともありましたが、企画委員になって、みんなと時間を共有できて本当によかったです。

3年 佐藤 七海(色麻中出身)

## 弁論部門 全国4位!

「日本一 伝える」

3年 今野 泰齊(古川北中出身)

みやぎ総文2017弁論部門に参加し、優秀賞を受賞しました。目標だった日本一にはあと一步届かず、少し悔しさは残りました。しかし、全国の多くの人から「心に響いた」「感動した」という言葉をたくさん頂き、これまで弁論を続けてきて良かったと思えました。自分の思いを伝えるという弁論の原点を、最後まで貫くことができ、「日本一伝える」という部分は達成できたと思っています。この大会に参加するにあたって支えてくださった先生方、友人、家族など全ての方々に感謝したいと思います。



## 自然科学部門

「みやぎ総文に出場して」

化学部3年 藤崎 竣也(小牛田中出身)

今回我々古高化学部は、「文化部のインターハイ」と称されるみやぎ総文に出場してきました。「せっかくだから他県に行きたかった」と思っていたのですが、宮城の魅力再発見につながったので、結果的には良かったと思えました。他校のレベルの高さを今回痛感しましたが全国の名立たる高校と肩を並べられたので、この総文祭は良い経験、思い出となりました。この機会をくれた部員や先生方に、この場で感謝します。



## 将棋部門

「全国大会に出場して」

将棋部3年 米倉 宏歩(中新田中出身)  
今回の全国大会では、これまでで1番良い結果を残すという目標も達成できず、予選敗退と後悔の残る結果となりました。ここで勝たなければ、という焦りからの単純なミスで負けたときは、自分が本当に情けなく、腹立たしく思えました。しかし、だからこそ、このままでは終われない、もっと将棋を続けて、強くなりたいという思いは一層強まりました。この無念をいつか晴らすことのできるよう、私はこれからも頑張っていきたいです。



## 第50回定期演奏会

## 吹奏楽部半世紀の響きに乗せて



今年の定期演奏会は記念すべき第50回目を迎えました。テーマは『半世紀の響き』。私達はこのテーマに古高サウンドを響かせ続けてくださった先輩輩方への感謝と、今私達が演奏できる喜びを込めました。特にこだわった第2部は各年代の名曲で50年を振り返りながらお客様と一緒に音を楽しみました。

支えてくださる方々がいて、私達が部活できることを忘れず、これからも「古高吹部」というバトンを繋いでいきたいと思えます。吹奏楽部 部長

## 120周年記念式典のお知らせ

- 日時 平成29年11月2日(木)
- 場所 本校体育館
- 日程 13:00～ 式典  
14:05～ 記念講演「風力発電の国内外の最新動向と日本の探るべき方向性」
- 講師 東京大学名誉教授 名古屋大学客員教授  
荒川 忠一 氏(高22回生)

